

1月の園だより



リレー大会 (12/11)



おもちつき (12/13)



おもちつき (12/13)



INDEX

◇目次	1
◇園長のことば	2
◇1月生まれのお友達	4
◇なかつ通信	6
◇クラス通信 (年長、ひまわり、ふじ組)	8
◇クラス通信 (年中、さくら、すみれ組、年少、たんぼぼ組)	12
◇中津だより1月号、1月学年便り	別紙

新年あけましておめでとうございます。いよいよ2019年がスタートしました。

今年の干支は、「亥（いのしし）」。いのししで思い浮かぶのは、「猪突猛進」。目標に向かって、まっしぐらに突進していく、そんな勢いのある年にしていきたいですね。

また平成は今年の4月30日をもって終わります。平成28年（2016年）夏に今生天皇が生前退位の意向を示され、平成30年（2018年）夏には新しい元号が発表になると言われていましたが、皇位継承直前の平成31年春まで公表されないようです。5月からどんな元号となるのか、それも楽しみです。12月23日は、カレンダーでは、「平成の天皇誕生日」と明記されています。

4月29日が昭和の日として祝日になっているので、この12月23日も平成の日として祝日になると、平成天皇を回顧して喜ぶ方もきっと多いと思います。また、祝日法を改正し、19年に限って5月1日を祝日にすると、4月29日の昭和の日と5月3日の憲法記念日に挟まれた前後の平日を休日にするので10連休が可能になり、その休み中に元号を改めれば、官民が混乱なく和暦のシステムを更新できるとの見方もあるそうです。また新天皇「即位の礼」の記念貨幣も発行するそうで、こういったおめでたい式典を共有できるのは、本当にありがたいことです。

それにしても、これでまた昭和生まれの人は、ずいぶんと古い時代の人と思われそうです。歴史は繰り返すので、我々昭和3～40年代の人も、明治、大正の方をずいぶんと昔の人と感じたように、新しい元号の人も昭和生まれをそう見るのかと思うと複雑な気持ちになります。

ものの捉え方は、ひとそれぞれですが、今年一年が、良い年でありますよう心から願います。

さて、幼稚園では、毎年、クリスマス会を実施しています。今年も12月10日に一部と二部に分かれて行いました。一部はアコースティックバンドの演奏で、さんぽ、夢をかなえてドラえもんなど子ども達がよく知っている歌を歌いました。二部は、クリスマス紙芝居やツリーへの点灯、サンタさんからのお手紙を朗読し、鈴の音に奏でて、サンタさんが登場しました。幼稚園でみるサンタさんに子どもたちの眼は輝いて、とっても楽しい時間を過ごしました。特に



子どもたちのサンタさんへの質問は、そこにいる多くの大人の心を始終和ませてくれました。サンタさんに一生懸命に質問をしようとするその姿は、幼い神様を見ているようでした。子ども達の純真さに、会場は温かな雰囲気にも包まれ、そこにいる大人はみな目を細めて微笑んでいました。サンタさんを心から信じているその子どもたちの姿はとても素晴らしいものでした。

心の中に見えないものを信じられる空間があること、それはきっと大きくなった時に、見えない世界のもの（神様や仏様、自然への畏敬の念）を信じるという心の美しさ、心の空間に繋がっていくものと確信しました。そして、その純真な心、すなわち徳性や信仰心は、この幼い時期から涵養（かんよう）していくことが大切だと実感しました。そして、それを大きくなるまで持ち続けるには、「レイチェル・カーソン」氏の以下の言葉にあるように感じました。保護者の皆様の中にも、幼い子ども達に宿るこの心の美しさがいつまでも続くように願う方は、たくさんいらっしゃると思いますので、一つのアドバイスとして捉えて頂ければ幸いです。

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない。

レイチェル・カーソン (Rachel Louise Carson)

(米国の生物学者、1960年代に環境問題を告発した。1907～1964)

地球の美しさと神秘を感じ取れる人は、科学者であろうとなかろうと、
人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることは決してないでしょう。レイチェル・カーソン

「こどもの達の世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激に満ち溢れています。」
残念なことに、私たちの多くは大人になる前に澄み切った洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直観力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

もしも私が、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、
世界中のこどもに、生涯消えることのない

「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を授けてほしいとたのむでしょう。
この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅、私たちが自然という力の根源から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤になるのです。」

レイチェル・カーソン (Rachel Louise Carson)

幼稚園のHPの「笑顔の小窓」のトップページにも、このレイチェル・カーソン氏の言葉を掲載させて頂いていますが、見えない世界のもの（神様や仏様、自然の神秘）を信じるという心の美しさは、大人になる成長段階で少しずつ失われていく傾向にあります。それを食い止めるのは、この「感じる心=感性」だと思います。そして、その感性は、与えられたら身に付くというのではなく、自らその感性を磨いて求めていかないと、難しいものとなります。

「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」は、常に謙虚さと学ぼうとする姿勢が必須の条件です。どうか子ども達が学ぶことに喜びを感じられるように、そして、神秘さや不思議さに目を見はる感性が涵養される環境であるように願ってやみません。三学期は、保育日数も50日余りしかありません。またインフルエンザや雪等で休園を余儀なくされることもあり健康面、安全面にも気を付けて一日一日を大切に、充実して過ごして頂きたいです。

なお現在、新しいホームページを作成中です。近日アクセスできるように準備していますので楽しみに。また、ペーパーレス化で連絡ナビを利用した配布物を徐々に利用していく予定です。欠席などの連絡もできるよう現在準備中です。

園長



冬休みより、屋根の全面改修工事を始めています。近日中完成の予定です。